

## 第Ⅱ章 分野別計画編

### I 安全・環境

#### 基本施策1 防災

##### ◆現況と課題

○平成23(2011)年3月に発生した東日本大震災を契機として、全国的に人々の防災意識が高まり、市民・企業・行政が連携し、防災対策を強化するための取組が進められています。このような状況を踏まえ、切迫する南海トラフ沿いの巨大地震に備え、いかに被害を最小限に食い止めるのか、防災力・減災力の強化が全国共通の喫緊のまちづくり課題となっています。また、外国からの武力攻撃や大規模テロ、新型インフルエンザをはじめとした全国的に急速な蔓延の恐れのある新感染症などに対する危機管理体制の充実を図ります。

【棚卸シート「基本施策を取り巻く状況」】

##### ◆基本施策の目的及び体系

地震や風水害などの災害が発生した場合でも、人的・物的な被害を最小限に止めることができる災害に強いまちをつくります。



##### ◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
災害による死者数	人	地震や風水害などの災害により市内で死亡した人の数	●	●

## ◆基本施策の展開方向1：防災意識を向上させる

## 【目的】

○市民の防災意識を高め、市民一人ひとりが「自らの身の安全は自らが守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚を強く持ち、地域の人々全員が災害に備えている、安全なまちづくりを進めます。

## 【手段】

- ①地域や学校など関係機関と連携して防災訓練や水防訓練を実施します。
- ②洪水ハザードマップ、地震防災マップや各種災害対応を1冊にまとめた小牧市版の総合防災ガイドブックを作成し配布するとともに、あらゆる機会を捉えて防災意識の啓発を行います。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
災害への備えをしている市民の割合	%	「普段から災害への備えをしている」と回答した市民の割合(アンケート調査)	●	●
避難所・避難場所を知っている市民の割合	%	「避難所・避難場所を知っている」と回答した市民の割合(アンケート調査)	●	●

## ◆基本施策の展開方向2：災害発生時に迅速に対応できる体制を強化する

## 【目的】

○平時から災害発生時に迅速な初動活動や復旧活動が展開できる体制を強化します。

## 【手段】

- ①他市町村や民間事業者などの関係機関と災害時における相互応援協定の締結を推進します。
- ②小牧市防災アセスメント調査の改訂を行い、総合的な災害対策を推進します。
- ③武力攻撃や新型インフルエンザをはじめとした全国的に急速な蔓延の恐れのある新感染症などに対応する危機管理体制の充実を図ります。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
小牧市と災害時応援協定を締結した市町村及び民間事業者の数	件	同左	●	●
初動マニュアル研修において、研修内容を理解した職員の数	人	同左	●	●

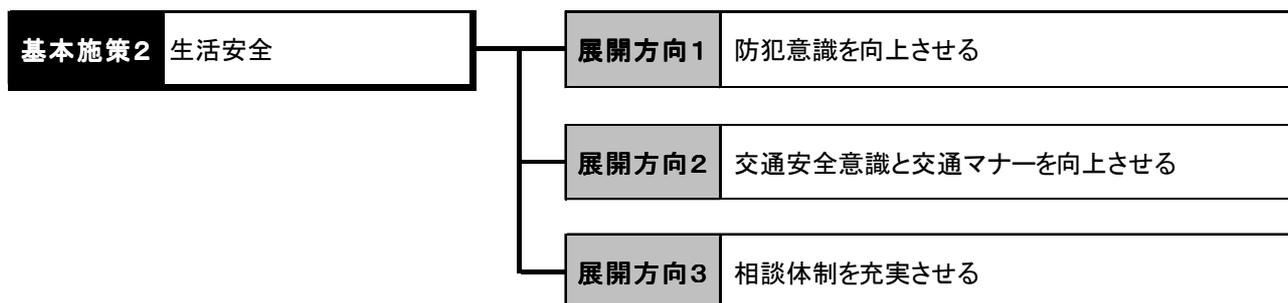
## 基本施策2 生活安全

## ◆現況と課題

- 平成 19（2007）年以降、小牧市の刑法犯認知件数は、概ね減少傾向で推移しており、平成 24（2012）年では 2,290 件と平成 19（2007）年の 3,311 件と比べ 30.8%（1,021 件）減となっています。また、罪種別では、いずれの年も窃盗が全体の約 8 割弱を占めています。【基礎調査報告書 P Ⅲ-1】
- だれもがより安心して暮らせる地域社会の実現に向け、警察や地域をはじめとする関係機関との連携・協力のもと、地域ぐるみで支え合い・守り合う自主的な防犯活動をさらに積極的に進めるとともに、ハード面からも犯罪が発生しにくい環境を整える必要があります。【棚卸シート「今後のまちづくりに向けた主要課題」】
- 高齢化の進展とともに、今後増加すると見込まれる高齢者を中心とした交通弱者を事故から守るため、交通安全意識の醸成や交通安全施設の充実など、総合的な交通安全対策を強化する必要があります。【棚卸シート「今後のまちづくりに向けた主要課題」】
- 平成 24 年 7 月に「市民総合相談案内」（愛称：相談ほっとナビ）を生活交流課内に設置し、どこに相談に行ったらいいのかわからない市民に対して、相談内容に応じて市内のみならず外部の相談窓口をも案内できる体制を開始させました。
- 高齢化の進行に伴い、今後ますます悪質商法による被害の拡大が大いに懸念されます。このため、消費生活に関する正しい知識の普及啓発や相談体制の充実などを進めていくことが必要です。【棚卸シート「基本施策を取り巻く状況」】

## ◆基本施策の目的及び体系

市民一人ひとりが犯罪、交通事故や消費者トラブルなどに巻き込まれないで安全で安心して暮らせるまちをつくります。



## ◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
犯罪発生率	件	人口千人当たりの刑法犯認知件数 (小牧警察署資料)	●	●
交通事故発生率	件	人口千人当たりの交通事故(人身)の 発生件数(小牧警察書資料)	●	●
相談満足度	%	相談に訪れた市民のうち「相談を 受け満足した」と回答した市民の 割合(アンケート調査)	●	●

## ◆基本施策の展開方向1：防犯意識を向上させる

## 【目的】

○防犯意識を向上させ、地域や各家庭、幼児から高齢者まで市民一人ひとりが身近な犯罪に対する備えや自主的な防犯活動を促進します。

## 【手段】

- ①警察、学校、事業者及び地域との連携・協力のもと、幼児から高齢者まで市民のライフステージ(年代)に応じた防犯教育を推進します。
- ②自主防犯パトロール団体の結成・育成及び活動の促進を図ります。
- ③玄関錠の交換やサッシへの防犯ガラスの取付け、センサーライトの設置など、自主的に防犯対策を講じた世帯に対する補助を行います。
- ④区(自治会)や商店街など、地域で組織する団体等による防犯カメラ等の防犯設備の設置促進を図ります。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
防犯に対する備えをしている市民の割合	%	「普段から防犯に対する備えをしている」と回答した市民の割合(アンケート調査)	●	●
防犯教室の参加者数	人	警察と連携開催した防犯教室への参加者数	●	●

## ◆基本施策の展開方向2：交通安全意識と交通マナーを向上させる

## 【目的】

○交通安全意識を向上させ、歩行者、自動車、自転車がそれぞれの立場で交通マナーと交通ルールを守り、安全・安心して共存できる交通環境を確保します。

## 【手段】

- ①警察、交通安全協会との連携・協力のもと、「交通安全スリーS運動（Stop・Slow・Smart）」、「ライド&ライト運動（夕暮れ時の前照灯早めの点灯）」、「飲酒運転の撲滅」の広報啓発を実施します。
- ②警察、学校、事業者及び地域との連携・協力のもと、幼児から高齢者までそれぞれの年代に応じた交通安全教室を実施して、交通ルールの遵守や反射材を活用した自己防衛など交通安全意識の向上を図るとともに、自転車、自動車等の運転者に「譲り合い運転の徹底」を図ります。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
交通マナーを守って生活している市民の割合	%	「普段から交通マナーを守って生活している」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
啓発事業参加者数	人	市が主催する啓発事業への参加者数	●	●

## ◆基本施策の展開方向3：相談体制を充実させる

## 【目的】

○市民が1人で不安や悩みを抱え込まずに、安心して暮らし続けられるよう適切にサポートします。

## 【手段】

- ①ハード・ソフトの両面から、市民からの様々な相談に的確かつ迅速に対応できる体制を充実させます。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
相談によって不安が解消された市民の割合	%	相談に訪れた市民のうち、「相談によって不安が解消された」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●

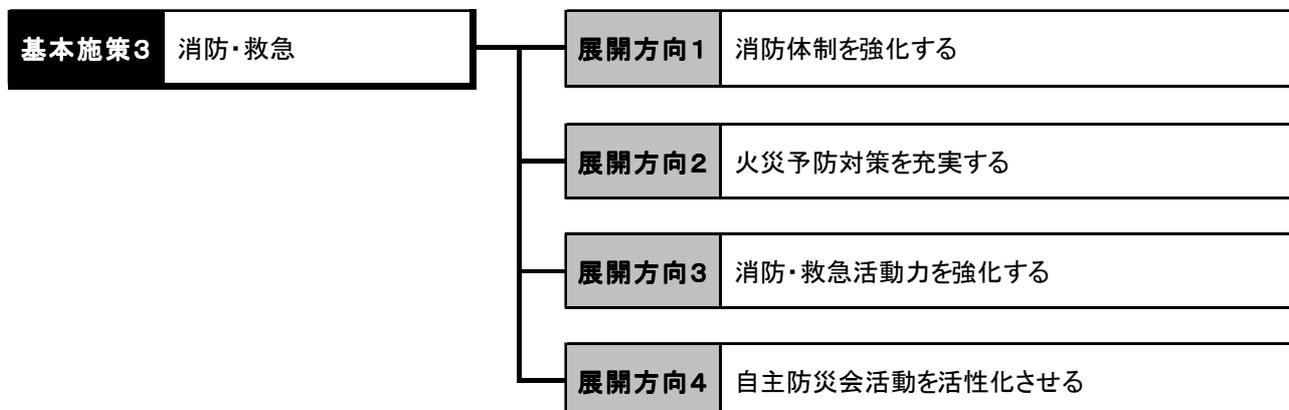
### 基本施策3 消防・救急

#### ◆現況と課題

- 今後の高齢化の進展を踏まえつつ、市民がより安心して暮らせる地域社会の実現を図るため、消防・救急体制を充実させる必要があります。
- 小牧市の平成 24（2012）年における救急件数（6,236 件）は、対平成 14 年（4,815 件）比で約 30%増と大きく増加しています。今後、高齢化の進展に伴い、救急需要はさらに高まっていくと見込まれます。【棚卸シート「本市の動向」】
- 住宅火災による死者数が急増したことを受け、消防法が改正され、小牧市でも新築住宅は平成 18（2006）年から、既存住宅は平成 20（2008）年から住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。しかし、平成 24（2012）年に市内で発生した住宅火災のうち、約 30%は住宅用火災警報器が未設置となっています。【棚卸シート「本市の動向」】
- 市民一人ひとりが自ら備え、地域で共に助け合う、自助・共助による地域の防災体制づくりを普及促進するため、地域に根ざした防災活動の主体となる自主防災会の活性化を図る必要があります。

#### ◆基本施策の目的及び体系

消防・救急体制及び防火安全対策を強化し、市民の生命、身体及び財産を災害や事故からしっかりと守ります。



#### ◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
火災による死亡者数	人	同左（暦年）	●	●
出火率	件	人口 1 万人あたりの出火件数 火災件数（1 月 1 日から 12 月末）÷ 人口（3 月 31 日の住民基本台帳）× 1 万人（暦年）	●	●

救命率	%	救命された人の割合（暦年）が、愛知県の平均値を上回る。	●	●
-----	---	-----------------------------	---	---

### ◆基本施策の展開方向 1：消防体制を強化する

#### 【目的】

○迅速な消火活動を実践し、火災が発生した場合の被害を最小限にとどめます。

#### 【手段】

- ①消防ポンプ自動車、化学車などの消防施設並びに消火栓、防火水槽などの消防水利施設の計画的な整備・更新を推進します。
- ②出動指令や境界付近の応援を迅速に行うため、近隣消防本部と消防通信指令事務の共同運用を推進します。

#### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
建物火災 1 件あたりの焼損面積	m <sup>2</sup>	建物焼損床面積の合計（年）÷建物火災件数（年）	●	●
火災 1 件あたりの損害額	千円	損害額の合計（年）÷火災件数（年）	●	●
通報を受けてから消防隊が現場に到着するまでにかかった時間	分	通報を受けてから消防隊が火災現場に到着するまでにかかった平均時間（暦年）	●	●
通報を受けてから救急隊が現場に到着するまでにかかった時間	分	通報を受けてから救急隊が現場に到着するまでにかかった平均時間（暦年）	●	●

### ◆基本施策の展開方向 2：火災予防対策を充実する

#### 【目的】

○火災の発生を未然に防止します。

#### 【手段】

- ①住宅用火災警報器の設置を促進します。
- ②防火対象物の立入検査などを通じ、事業所における防火安全体制の確立を促進します。
- ③火災予防啓発活動などを通じ、市民の防火意識の向上を図ります。

#### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
住宅用火災警報器の設置率	%	「住宅用火災警報器を設置している」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●

日頃から火災を予防する取組みを行っている市民の割合	%	「日頃から火災を予防する取組みを行っている」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
---------------------------	---	---	---	---

## ◆基本施策の展開方向3：消防・救急活動力を強化する

## 【目的】

- 消防職員や消防団員による現場活動力を強化します。
- 救急業務を強化します。
- 救急車の適正利用を促進します。

## 【手段】

- ①消防署と消防団による合同訓練を実施し連携強化を図ります。また、消防・救急活動力を強化するために、署内での各種訓練を継続して実施します。
- ②近隣消防本部や医療機関など関係機関との合同による消防訓練を推進します。
- ③救急現場に居合わせた市民などによる応急手当の普及に向け、救命講習会を開催します。
- ④計画的かつ継続的に救急救命士の育成を図ります。
- ⑤広報こまきや市のホームページなどを通じ、救急車の適正利用に対する市民意識の啓発を図ります。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
署内訓練及び関係機関との合同訓練の実施回数	回	同左（暦年）	●	●
心肺停止傷病者の付近に居合わせた人による応急手当実施率	%	同左（暦年）	●	●
消防団員の教育訓練等受講者数	人	消防団の消防活動力を強化するために実施する教育訓練等の受講者数	●	●

## ◆基本施策の展開方向4：自主防災会活動を活性化させる

## 【目的】

- 市民一人ひとりが「自らの身の安全は自らが守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚を強く持ち、地域の人々全員が災害に備えている、安心なまちづくりを推進します。

## 【手段】

- ①家庭や地域での防災対策について、地区で実施する防災訓練などで周知・啓発します。
- ②地域消防の担い手である消防団が地区防災訓練に参加し、地域住民と一体となった防災体制を確立します。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
防災活動を行っている自主防災会などの組織数	組織	同左	●	●
消防団が参加した自主防災活動実施組織数	組織	同左	●	●
他区と連携して防災活動を行った組織数	組織	同左	●	●

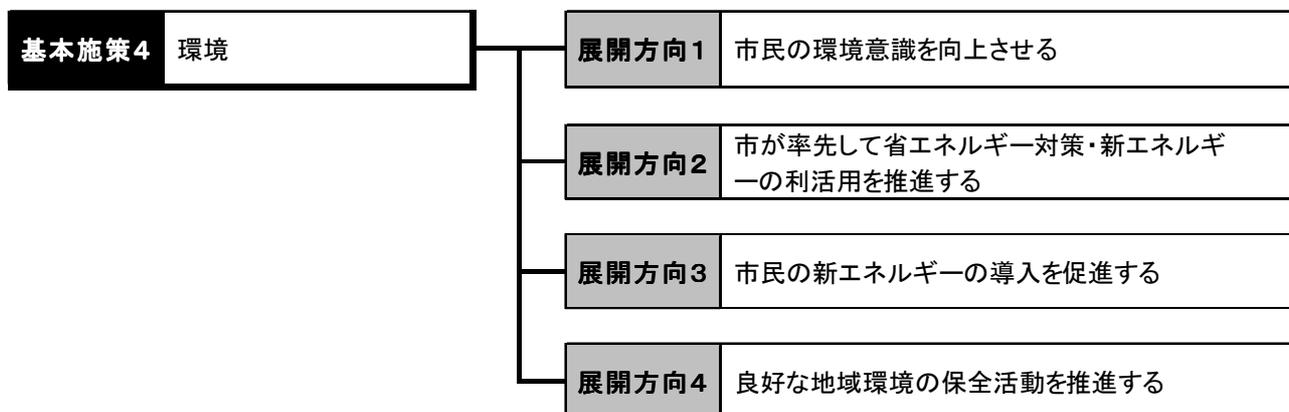
## 基本施策4 環境

## ◆現況と課題

- 温室効果ガスの大気中の濃度が上昇することによる地球の平均気温上昇は、様々な気候の変動をもたらし、人類の生存及び社会経済の存立の基盤を揺るがす重大な脅威です。この地球温暖化の脅威から、現在はもとより将来にわたって国民の生命・身体・財産の安全を確保することは、もはや人類の共通課題として広く認識されるまでに至っています。
- 従来、原子力エネルギーへの依存を高めることを柱として、エネルギーの安定供給の確保を目指し、地球温暖化問題の解決を模索してきたこれまでの我が国のエネルギー政策は、平成 23 (2011) 年 3 月の東日本大震災とこれに続く福島第一原子力発電所の事故によって、大きな転換を迫られています。【基礎調査報告書 P I-10】
- 小牧市においても、温室効果ガスの排出量の着実な削減と、省エネルギー設備及び太陽光に代表される自然の力を利用した新エネルギーの普及拡大を図るため、行政が先導役を果たしつつ、市民・事業者をはじめとする多様な主体との連携・協力による取組を促進し、これらの取組が相乗効果を発揮する好循環の仕組みを確立する必要があります。【基礎調査報告書 P I-10】

## ◆基本施策の目的及び体系

環境への負荷の少ない低炭素社会の実現などを通じ、地球環境の保全に寄与するとともに、大気や水、土壌などの身近な地域環境を良好な状態に保持し、自然の恵みに満ちた快適で住みよい生活環境を創造します。



## ◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
市内の電力消費量	MWh	市内における電力販売量	●	●
需要戸数当たりの都市ガス消費量	m <sup>3</sup> /戸	市内の家庭用に供給した都市ガス量/ 需要戸数	●	●
市内環境指標項目の環境基準 <sup>1</sup> 達成率	%	大気3項目、水質1地点、土壌3地点、 騒音4地点の環境基準の達成率	●	●

## ◆基本施策の展開方向1：市民の環境意識を向上させる

## 【目的】

○次代を担う子どもたちをはじめ、より多くの市民が大気や水、土壌などの身近な地域環境を良好な状態に保つための活動に主体的に取り組めるようにします。

## 【手段】

①身近な地域環境に対する市民の関心の喚起と主体的な保全活動の実践に結びつくよう、環境学習の機会の提供や学習内容の充実を図ります。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
日頃から環境にやさしい取組みを心掛けている大人の割合	%	「日頃から身近な地域環境にやさしい取組みを心掛けている」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
日頃から環境にやさしい取組みを心掛けている子どもの割合	%	「日頃から身近な地域環境にやさしい取組みを心掛けている」と回答した子どもの割合（アンケート調査）	●	●

## ◆基本施策の展開方向2：市が率先して省エネルギー対策・新エネルギーの利活用を推進する

## 【目的】

○低炭素社会の実現に寄与し、市民・事業者の規範となるよう、市有施設のエネルギー消費量及び温室効果ガス排出量を最大限削減します。

## 【手段】

- ①市有施設の新設や改修にあわせ、省エネルギー設備や新エネルギーの導入を推進します。
- ②市が率先して省エネルギー化に向けた行動を実践します。

<sup>1</sup>人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
公共施設のエネルギー消費量	k1	市所有の全ての公共施設で消費される原油換算したエネルギーの消費量 (省エネ法に準拠)	●	●

## ◆基本施策の展開方向3：市民の新エネルギーの導入を促進する

## 【目的】

○市民の日常生活における新エネルギーの導入を促進します。

## 【手段】

①太陽光や太陽熱などを活用した新エネルギー利用設備を導入した市民に対する補助を行います。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
太陽光発電システムの普及基数	基	市の補助を受け、設置された住宅用太陽光発電システムの基数	●	●

## ◆基本施策の展開方向4：良好な地域環境の保全活動を推進する

## 【目的】

○市民や事業者との連携・協力のもと、大気や水、土壌などの身近な地域環境を良好な状態に保持し、公害の発生を適切に防止します。

## 【手段】

- ①大気汚染や水質汚濁、土壌汚染などの監視測定を行います。
- ②地域環境に著しく影響を与える可能性がある工場などを設置又は設置しようとしている事業者と環境保全協定を締結します。
- ③地域環境の改善に寄与する施設・設備を導入する市民に対する補助を行います。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
河川のBOD <sup>2</sup> 平均値	mg/L	市内河川37地点の平均値	●	●

<sup>2</sup>有機物による水の汚濁の程度を示す指標

## 基本施策5 ごみ対策

## ◆現況と課題

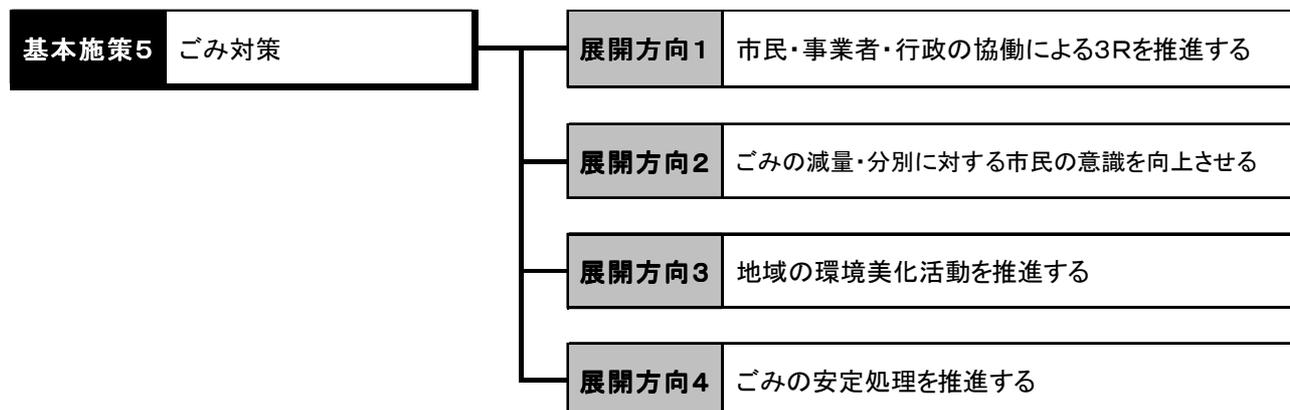
○近年、中国の外交問題に端を発したレアアースの対日輸出規制や東日本大震災で発生した大量のがれき処理問題などを契機に、国内のごみ対策は、廃棄物の減量化に重きを置いてリサイクル等を推進する段階から、廃棄物等を貴重な資源やエネルギー源としてより一層有効活用し、資源生産性を高め、枯渇が懸念される天然資源の消費を抑制しようとする新たな段階へと移行しつつあります。【棚卸シート「基本施策を取り巻く状況」、「循環型社会形成推進基本計画（平成25年5月 環境省）」】

○小牧市の平成24（2012）年度のごみ総収集量（家庭系）は34,110 t、総処理量（事業系含む）は46,832 tであり、平成17（2005）年度以降減少傾向で推移しています。また、平成23（2011）年度のごみの総排出量を近隣6市<sup>3</sup>と比較すると、小牧市の1人1日当たりの総排出量は886 g/人・日で全7市中多い方から4番目、また、リサイクル率は27.0%で2番目の高さとなっています。【平成23年度一般廃棄物処理事業実態調査】

○資源循環型社会の構築に向け、今後も引き続き、市民や事業者との連携・協力のもと、3R（リデュース＝ごみの発生抑制、リユース＝再利用、リサイクル＝再資源化）やごみの安定処理に向けた取組を着実に推進する必要があります。

## ◆基本施策の目的及び体系

市民・事業者との適切な役割分担のもと、協働で資源循環型社会を構築するとともに、ごみのポイ捨てなどが無い快適で清潔な生活環境を確保します。



<sup>3</sup> 春日井市、刈谷市、安城市、犬山市、江南市、岩倉市の計6市。

## ◆基本施策の進捗状況を測定するための指標

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
1人1日当たりの年間ごみ排出量（事業系ごみ含む）	g	市内から排出される家庭系ごみ、事業系ごみの排出量	●	●
不法投棄されたごみの環境センターへの搬入量	kg	市有地へ不法投棄されたごみの回収量	●	●

## ◆基本施策の展開方向1：市民・事業者・行政の協働による3Rを推進する

## 【目的】

○市民・事業者との協働による3Rの取組を推進し、ごみの再資源化率を高めます。

## 【手段】

- ①生ごみの堆肥化、雑がみなどの再資源化を推進します。
- ②事業者に対し、廃棄物減量等推進計画書の作成を徹底するなど、ごみの排出指導を強化します。
- ③PTA・子ども会などによる自主的な資源回収活動を支援します。
- ④資源回収ステーションの活用や民間による資源回収コンテナの斡旋などを通じ、地域における資源回収の機会を増やします。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
再資源化率	%	ごみの総排出量に対する資源化量の割合	●	●
事業系ごみの年間排出量	t	同左	●	●

## ◆基本施策の展開方向2：ごみの減量・分別に対する市民の意識を向上させる

## 【目的】

○市民一人ひとりがごみ出しのルールを遵守するとともに、家庭からのごみの排出を可能な限り抑制します。

## 【手段】

- ①様々な機会や媒体を活用し、ごみの分別方法や減量方法などを分かりやすく紹介する出前講座や環境教育等を実施します。
- ②すべての市民にごみの分別方法を周知するため、転入者や外国人市民にもわかるようにパンフレット等による啓発を行います。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
家庭系ごみの1人1日当たりの排出量（資源を除く）	g	家庭系ごみのうち、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの排出量	●	●

## ◆基本施策の展開方向3：地域の環境美化活動を推進する

## 【目的】

○ごみのポイ捨てなどのない、快適で清潔な生活環境を確保します。

## 【手段】

- ①ごみの散乱防止重点地域において、市民・事業者とともに、ごみのない美しいまちづくりに向けた環境美化活動を推進します。
- ②アダプトプログラム<sup>4</sup>やクリーンアップ事業の推進により、市民の自主的な環境美化活動を支援します。
- ③各地域におけるごみ集積場の適正管理に対する支援をします。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24 年度	H30 年度
ポイ捨てがないきれいなまちだと思ふ市民の割合	%	「ポイ捨てがないきれいなまちだと思ふ」と回答した市民の割合（アンケート調査）	●	●
クリーンアップ事業年間参加者数	人	10人以上で構成された団体による清掃活動への参加者数 市はごみ袋などの配布やごみ収集を行う。	●	●

## ◆基本施策の展開方向4：ごみの安定処理を推進する

## 【目的】

○廃棄物を安定的かつ安全に処理するとともに、より適切な条件下で再利用や資源化を推進します。

## 【手段】

- ①新たな焼却炉の整備、クリーンセンターとし尿浄化槽汚泥処理施設の統合を推進します。
- ②一般廃棄物処理施設の適正な管理運営を行います。

<sup>4</sup> 道路や公園などを気持ちよく利用できるよう、市民自らがごみ拾いや樹木への散水、除草等のボランティア活動を行うこと。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明	実績値	目標値
			H24年度	H30年度
焼却施設における可燃ごみの年間処理量	t	同左	●	●
し尿処理施設における年間処理量	k l	同左	●	●
資源回収量	t	市の収集や集団回収で回収される資源ごみ等の総量	●	●